

二〇一七年 二月

せうい

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

つまらなく見えるものの中から すばらしいものが生まれる。

とういよしお

東井義雄

「僕は高校生活の三年間、一日にたった十分ですが、寝る前に必ず素振りをしました。その十分の素振りを一年三百六十五日、三年間続けました。これが誰よりもやった練習です」

メジャーリーガーのイチロー選手の言葉です。

一日にたった十分寝る前に素振りをやることはだれもができることです。しかし、ほとんどの人は、三年間欠かさず続けるようなことはしません。

ところがイチロー選手は、そのような一見つまらなく見える練習を三年間どんなことがあっても毎日欠かさず続けました。誰もができるようなことを誰もができない程続けたのです。

もちろんそれだけでメジャーリーガーになれたわけではないかもしれませんが、小さなことからコツコツとする以外にすばらしい結果を招くことはないのです。

勉強、クラブ活動、毎日の生活、ひいては人生において、一見「つまらなく見えるもの」を本当につまらないものにするか、すばらしいものにするかは、あなた次第です。

今月の聖語

わが愚かさを悲しむ人あり。この人すでに愚者にあらず。

自らを知らずして、賢しと称するは愚中の愚なり。

ほつくぎょう

『法句経』

『法句経』など「経」と呼ばれるものは、仏さまの教えが示されています。

仏さまの教えはよく「鏡」にたとえられます。鏡に映る姿をみて、本当の自分の姿に気付くことができるように、教えによって自分の愚かさが明らかになるからです。

聖語の意味は、「自分自身の愚かさを悲しむ者は、愚か者ではない。自らの愚かさを知らずに、賢いと言う人こそ最も愚かな者だということ」です。

自分ではなかなか自身の愚かさに気付くことはできませんが、教えという鏡によってこそ、自分の本当の姿に気付くことができます。そもそも、私が自身の愚かさに気付く前に、仏さまは我々の愚かな姿を悲しまれ、教えという鏡をお示し下さったのです。

今月の涅槃会は、お釈迦さまがこの世のいのちを終えられたことを偲ぶ宗教行事です。この世に仏さまとしてお出ましになり、教えが遺されたことへのよろこびを胸に、参拝致しましょう。

宗教教育係